

早来北進産業廃棄物最終処分場建設の問題について考える

令和3年4月14日(水)に、早来北進、早来守田、早来緑丘、東早来、安平、早来瑞穂地域の住民を対象に「町長との意見交換会」を実施しました。町は、現在民間事業者が予定している産業廃棄物最終処分場建設に対し、多くの町民の意見を尊重して、産業廃棄物最終処分場建設計画阻止に向け、次の事について自治会等と連携し粘り強く対応を進めていきたいと考えています。



①北海道循環型社会形成の推進に関する条例の尊重！

北海道循環型社会形成の推進に関する条例では、施設設置等を計画する事業者には、条例で3つの責務を果たすことが求められています。しかし、今回の事業計画は、多くの町民が反対をし、「周辺住民の理解を得るように努める」ことが不十分で、住民同意の形成が成されていない状況となっています。

- (1) 施設の周辺地域の生活環境に及ぼす影響に十分配慮すること
- (2) 施設の立地上配慮すべき事項に十分配慮すること
- (3) 施設の周辺住民の理解を得るように努めること

②これ以上安平町に産業廃棄物最終処分場は必要ではない！

町には、旧早来町において誘致した産業廃棄物最終処分場が昭和60年から既に事業活動を35年行っており、町民に直結する事業としては、家庭で出される生ごみの堆肥化を行っています。

しかし、この間、色々な公害問題等もありましたが、その時々に対応により、地域との信頼関係を築いてきたものであります。また、このような産業廃棄物最終処分場は、安平町のような小さい町にいくつも存在することは珍しいことで、町は「これ以上の産業廃棄物最終処分場は、必要としないもの」と考えています。

産業廃棄物最終処分場の建設計画に 反対する署名の提出！

「安平の自然を守る会」の内藤圭子代表は、令和3年2月25日(木)に「産業廃棄物最終処分場建設計画に対して、安全性と周辺地域の暮らしの影響について議会で検討してほしい」と請願書を安平町議会に提出されました。

並行して、令和3年3月より町内を中心に町および議会に対する署名活動を開始し、令和3年4月23日(金)に内藤代表は「建設計画の内容・影響・安全性について町独自で調査・検討を行い、町民に情報提供をしてほしい。また、町民の意向にそった意見書を北海道に提出してほしい」と、881筆の署名と共に及川町長に手渡され、4月20日(火)には、安平町議会にも同様に885筆の署名が牧田弘満議長に提出されております。



なお、議会に対する請願については、4月20日(火)および5月11日(火)の総務常任委員会で審議され、北海道の判断を尊重する等の意見により不採択となりました。

※本件については、不定期連載を行う予定です。